

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0302024

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 平成25年度 ・旧林務署公宅屋根改修(2棟4戸) 2,400千円
基本施策	18 住環境の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 良好な住宅・宅地の供給	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町有施設整備事業	見直し年度		
事業期間	平成24年度	担当課	3 税財管理課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	住環境の整備		#N/A	
事業目標	3棟6戸	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容	
計 画 内 容	旧林務署公宅購入 3棟6戸 旧林務署公宅内部改修 3棟6戸					旧林務署公宅購入 3棟6戸 旧林務署公宅内部改修 3棟6戸	
	事業費(千円)	26,000	0	0	0	26,000	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	26,000				26,000	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	25,358	0	0	0	25,358	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	25,358				25,358	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等)		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値				3棟6戸	
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	98%
		全体達成率	0%	0%	0%	0%	98%
	事業進捗状況					☆☆☆☆	

事業名	町有施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	税財管理課長	淡路至尊
		評価者 作成者 職氏名	管財係長	花松賢一

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	一般町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	旧林務署公宅購入及び公宅内部改修								
【抱える課題やニーズは】	本町においては住宅不足が深刻な状況であり、町営住宅は収入基準が入居要件としてあるため、収入により制約を受けることのない町有住宅の整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	旧林務署公宅を購入、改修し、誰もが町有住宅として活用することにより、収入要件等において町営住宅に入居できない方も入居を可能とし、住宅不足が緩和される。	① 旧林林務署公宅購入及び公宅内部改修	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>6戸</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>6戸</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	6戸	実績値	6戸	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	6戸										
実績値	6戸										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	旧林務署公宅を購入、改修し、町有住宅として活用することにより、住宅不足が緩和され、収入要件等において町営住宅に入居できない方も入居を可能とし、誰もが入居出来る住宅とする。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	旧林務署公宅購入	北海道と協議を実施し、旧林務署公宅3棟6戸を購入した。									
	町有住宅改修工事	旧林務署公宅内部を整備した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	旧林務署公宅を購入整備することにより、町有住宅としての活用が推進され、本町における住宅不足の解消にも繋がるため、計画的に事業を進める必要があると判断する。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	住環境整備を進め、入居者を確保しているため有効であると判断する。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	低コストな設計により事業費抑制に努め、改修工事を行ったことにより、良好な住生活の確保及び入居者確保が図られており、コストに見合った効果は得られていると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

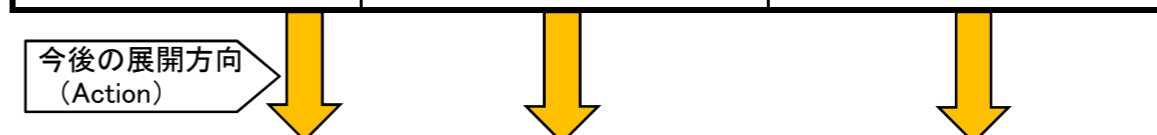
公平	判断の理由	旧林務署住宅を整備し、入居者を確保していることにより、本町全体の住宅不足の解消にも繋がるため、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
旧林務署公宅購入、改修工事を実施したことにより、入居者の確保も図られたことから、今後も計画的に事業を進めることが適当である。		



継続/現状維持		
住環境を整備し、住宅不足の解消にも繋がることから、今後も計画的に事業を進める必要がある。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止